

パンフレットの構成案について

■パンフレットの目的

- ・マニュアル改訂版（ガイドラインおよび保護管理の手引き）を読んでもらう
- ・改訂版のポイントを伝える
- ・各現場での対策実施を支援
- ・特定計画（任意計画）作成の促進

■パンフレットのページ数

- ・8ページ ホチキス中綴じ
- ・フルカラー

■配布方法

マニュアル改訂版と一緒に配布予定

- ・都道府県の鳥獣行政担当部局へ郵送
- ・環境省のホームページ上でPDFを公開

※その他、研修会等での利用を想定

■構成（案）

- ・改訂版のポイント解説
- ・読み方の解説：はじめに→ガイドライン→手引き（鵜的フェーズ→技術編・資料編）
- ・ガイドラインの構成説明（各項目の記載内容の概略説明）
- ・手引き編の構成説明（鵜的フェーズの解説、各項目の記載内容の概略説明）
- ・個体群管理（分布管理・個体数調整）の解説
- ・「はじめに」の精神のピックアップ
- ・インターネット情報の周知（普及啓発）

■内容（案）

○パンフレットタイトル

主題： 特定計画を作ろう！ for Cormorant

副題： 特定鳥獣保護管理計画作成のためのガイドライン及び保護管理の手引き（カワウ編）を読む方へ

○改訂版のポイント解説

- 2部構成になり、カワウの保護管理の全体像が掴みやすい。
- フローチャートの導入と解説により、「いまやるべきことは何か？」をわかりやすく説明。
- 個体群管理の考え方とノウハウが詳しく記載されている。

○読み方の解説

- 「はじめに」（約1ページ）を読む。



- ガイドライン（8ページ）を読む→カワウの保護管理の全体像が掴める。

（2）順応的管理

- カワウによる水産被害対策は、厳しい状況のなか、被害を受けている内水面漁協が中心となって、精力的に続けられてきた。被害を最小限にするために、実施した対策の効果を検証し、次の対策につなげている。この繰り返しが、順応的管理である。
- カワウにおける順応的管理では、地域が置かれているカワウの保護管理に関する状況を正確に把握することが最重要である。現状をもとに計画を立て（Plan）、計画を実行し（Do）、効果を検証するための調査を行ない（Check）、科学的評価をもとに計画を改善する（Act）という4つのステップからなる。これはPDCAサイクルとよばれ、順応的管理の基本である。（手引き編Ⅱ-1-(2)順応的管理）



- 鵜的フェーズのフローチャートを使って、自身の関わる都道府県の状況を把握する→いま何をすればよいか、技術編と資料編のどこを読めば良いかが分かる。

鵜的フェーズ1

このフェーズは、都道府県内のカワウのねぐら・コロニーの位置、個体数を把握できていない状態で、一般に、都道府県内に生息するカワウの個体数が100羽以下で、まだ被害が顕在化していないことが多い。

鵜的フェーズ1の都道府県は、手引きの

・Ⅱ-2（1）カワウの生息状況の調査方法 p45
を参考にし、個体数の把握を行う。

- 技術編と資料編を読む。事例を多数紹介しつつ解説されているので、関心のあるところや読むべきところを、辞書を引くようにして読む。

○ガイドラインの構成説明

各項目の記載内容の概略説明

○手引き編の構成説明

鷓的フェーズの解説

技術編・資料編の各項目の記載内容の概略説明

○個体群管理（分布管理・個体数管理）の解説

分布管理と個体数管理

新規ねぐらやコロニーを除去する

ねぐらやコロニーの分布管理によって漁業被害を減らす

擬卵やドライアイスによる繁殖抑制

専門的・職能的捕獲技術者（カラー）によるシャープシューティング

○はじめにの精神のピックアップ

.....

・・・飛来するカワウを銃器で撃つだけで問題は解決しない。このことは、多くの失敗事例が物語っている。急がば回れである。冷静に被害状況を把握し、持続可能な体制とカワウを管理するための計画を作ることが先決である。

.....

【補足説明】

計画があると、関係者を説得しやすくなり、カワウ対策が進めやすくなる。

計画があると、目標が明確になるとともに、関係者の連携がしやすくなる。

.....

古来よりカワウは日本に暮らす在来種であるため、撲滅や駆逐ではなく「ほどほどに
いること」を目指すことが大前提となる。つまり、カワウ問題解決のゴールは、ヒト
とカワウの平和的共存を実現することにある。

.....

【補足説明】

カワウを放任しておくのではなく、被害が小さくすむよう、彼らには「ほどほどに」
いてもらう必要がある。カワウがどこにいると困るのか、いつ飛来すると困るのか、
どれくらいいると困るのかを明らかにし、特に被害への影響が大きいところから重点
的に手を打っていくことが、ゴールへの近道となる。全ての地域で、全ての時期に、
全てのカワウをいなくすることを目指すのは、現実的ではない。

○インターネット情報の周知（普及啓発）

カワウ保護管理ポータルサイト

<http://www.biodic.go.jp/kawau/index.html>